

JGAP

ジェイギャップ
(Japan Good Agricultural Practice)

団体事務局用

2012年9月1日より有効

団体における残留農薬検査の農場のサンプリングに関するガイドライン(茶)

茶のJGAP団体審査・認証における残留農薬分析は『JGAP 農場用 管理点と適合基準 茶 2012』の管理点3.3.4残留農薬検査のサンプリングにおいて、農場の選定方法について以下のガイドラインが追加で適用されます。

1. 原則

JGAPにおける残留農薬検査は、農場が適切な農薬使用を実施できているかを検証することが目的であり、製品ロットの合否を目的とした製品検査ではない。従って、その目的からして、複数の農場の生葉が合葉されたサンプルを検体とすることは禁止する。

選定された農場に対しては、管理点3.3.4の条件を満たす農薬成分・摘採時期・場所の生葉を特定して荒茶製造したものを検体としてサンプリングすること。尚、通常の荒茶製造ラインでの製造が困難な場合、別な方法で生葉を乾燥させ、通常製造の荒茶と同程度の水分量まで乾燥させたものを荒茶としてよい。

2. 対象となる農場

団体を構成している農場及び団体が生葉工程を外部委託している農場(生葉売り等)の全てをサンプリングの候補としていること。但し、生葉工程の外部委託先がJGAP認証等の日本GAP協会が認める第三者認証を取得している場合には、サンプリングの対象から除外することができる。

3. 農場の選定方法

残留農薬に関し、リスクの高い農場から優先して最低1農場を選定すること。該当する農場がない場合には、無作為に最低1農場を選定すること。選定にあたっては、あらかじめ順番を決めることや、検査対象となる農場に対して農薬使用前に検査対象であることを通知することが無いようにする。尚、リスクの高い農場の条件には、例えば以下があり得る。

- a. ドリフトが判明しているが、刈り捨てずに摘採を予定している農場
- b. 過去1年間に、農薬使用方法が適切でないことを団体及び審査・認証機関または内部監査によって指摘された農場
- c. 新しく団体に加入した農場、新しく圃場を増やした農場
- d. 過去1年間に、農薬使用責任者が変更になった農場
- e. これまで残留農薬検査を一度も実施していない農場